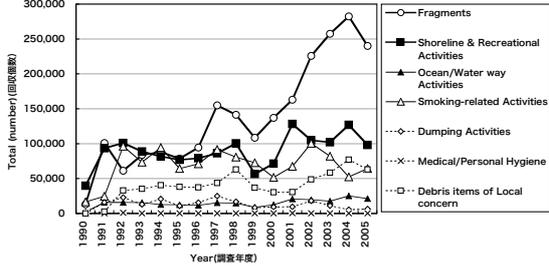


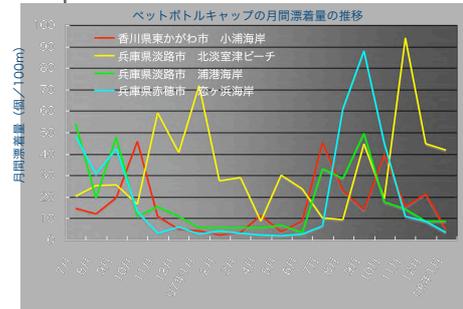
### Q4. 海洋ごみ問題の今後は？

1990年から2005年までのICCによる発生源別回収個数の推移



活動別の回収個数では、破片の増加が顕著。  
海岸活動・レクリエーション活動品目、国内特定品目が増加傾向。  
喫煙関係は横ばい傾向。  
=>海洋ごみは減少しておらず、破片化が進行している。

### A4. 漂着する季節と推移



### A4. 増えているごみと減っているごみ

**増加品目**

破片類 (6品目)  
プラスチックプラボトル  
ふたキャップ  
ストロー  
カキ養殖用パイプ  
苗木ポット  
使い捨てライター  
靴サンダル  
ストラップバンド  
レジンベレット  
たばこのパッケージ  
洗剤ボトル  
生活雑貨  
漁網  
釣糸  
発泡スチロール製フロート  
ロープ  
ななごころ  
うきフロート

**減少品目**

フルタフ  
花火、ルアー/蛍光棒  
建築資材  
魚箱、おむつ

### A4. 水産業への影響

- ・ チリメンジャコ網に微小プラスチックの混入 (東シナ海)
- ・ 海苔網にカキ養殖用プラスチックパイプの絡網 (瀬戸内海西部)
- ・ 漂流漁網が海藻にダメージ (長崎県対馬)
- ・ 養殖海苔に浮遊プラスチックの混入 (八代海南部)

### A4. 新しい種類の海洋ごみの発生

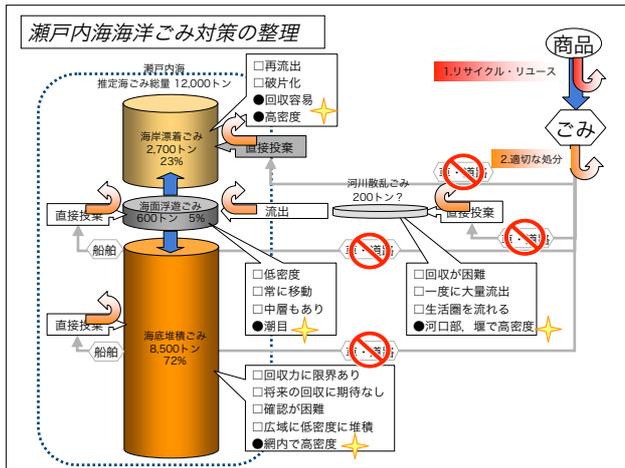
### Q5. 海洋ごみ問題を解決するためには？

なぜ我々は海岸を清掃しなければならないのか？



### なぜ調査が必要なのか？





## A5. 今後の課題と問題点

1. 課題
  - 陸でのごみ問題解決への取組み（発生源対策）
  - 流域を含む海域単位での取組み（陸からの視点から、海からの視点へ）
  - 沿岸住民だけではなく、その地域で活動する人またはその地域を通過する人を含めた取組み
2. 問題点
  - 海底ごみ：漁業者の減少による回収力が低下する。
  - ごみの移動：ごみは、水だけでなく車によっても移動する。海岸行政だけの問題ではない。
  - 外洋への流出

